



ローズクォーツの指輪を買ったのは、彼と別れた翌日だった。「これで恋愛運が上がります」なんて、店員の軽いセールストークに乗せられたわけじゃない。ただ、あまりにもピンク色が甘ったるくて、見ているだけで気分が悪くなりそうだったから。こんなにも不快な色の石を身につけていれば、きっと彼のことなんか忘れられるだろうと思ったのだ。でも、指にはめた瞬間、なぜか涙が溢れてきた。馬鹿みたい。石ころひとつで泣くなんて。それでもこの涙が最後だと思えば、この指輪も悪くない買い物だったのかもしれない。

「ローズクォーツ（紅石英）」

